

7 . 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 水源地域の概況

7.1.1 水源地域の概要

猿谷ダムの水源地域市町村は、天川村、野迫川村、五條市大塔町（旧大塔村）と、猿谷ダムからの分水先である紀の川流域の五條市（西吉野町を含む（旧西吉野村））、猿谷ダム下流の十津川村を含めて水源地域とする。

猿谷ダムが位置する五條市は、紀伊半島のほぼ中央部、奈良県の南西部に位置し、四季折々に情感を漂わせる国立・国定公園などの豊かな自然とロマンにあふれる歴史が満ち溢れている。



図 7.1 - 1 猿谷ダム水源地域位置図

古代や南北朝時代からの史跡、多くの人や文化が往来した街道や河川など世界に誇れる歴史、魅力満載の観光・交流資源も備わっている。

産業面でも、日本一の柿の産地であり、広大な山林を背景とした林業、特色ある地場産業、テクノパーク・なら等の工業団地などバラエティーに富んでいる。また、道路面でも現在着工中の京都・奈良・和歌山を結ぶ京奈和自動車道、紀伊半島を縦断する五條新宮道路、現在検討中の本市と三重県松坂市を結ぶ東海南海連絡道がクロスする町として期待されている。

そして、かつて、五條代官所が置かれたように、南和地域の中心拠点として発展し、明治維新の発祥の地となった誇るべき歴史がある。

このように、五條市は「豊かな歴史が織り成す、なごみとロマンとふれあいの創造都市」を目指して未来へと羽ばたこうとしている。

7.1.2 ダムの立地特性

猿谷ダムへは、五條駅から国道 168 号線を利用してバスで約 50 分の距離にある。五條市は、京奈和自動車道、五條新宮道路、東海南海連絡道がクロスする町であり、これらの交通手段を通じて猿谷ダムおよびその周辺の観光施設への観光客の集客が期待されている。



図 7.1 - 2 猿谷ダムへの交通アクセス

出典：資料 7 - 1

交通アクセス（五條市まで）

- (1) 大阪 JR 環状線・関西本線王寺 JR 和歌山線（高田） JR 和歌山線五條 2 時間
- (2) 大阪 地下鉄難波 南海高野線橋本 JR 和歌山線五條 2 時間
- (3) 京都 近鉄京都線（大和西大寺） 近鉄橿原神宮前 近鉄吉野口 JR 五條 2 時間
- (4) 名古屋 JR 新幹線京都 ルート（4） 3 時間
- (5) 和歌山 JR 和歌山線五條 1 時間 30 分
- (6) 関西空港 南海線新今宮 南海高野線橋本 JR 和歌山線五條 2 時間 30 分
- (7) 大阪（伊丹）空港 空港バス大阪 ルート（1）（2）（3）五條 2 時間 30 分

7.2 ダム事業と地域社会情勢の変遷

(1) 水源地域および下流市町村の人口・世帯数の推移

猿谷ダム水源地域および下流市町村である天川村、野迫川村、旧西吉野村（現五條市）、旧大塔村（現五條市）そして十津川村の人口・世帯数の推移を表 7.2 - 1、図 7.2 - 1 に示す。

図より、猿谷ダム水源地域および下流市町村では、人口が減少し続けていることがわかる。世帯数については、平成 12 年までは増加していたが、平成 17 年減少に転じていることがわかる。

表 7.2 - 1 猿谷ダム水源地域および下流市町村の人口・世帯数の推移

	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
人口（人）	58,435	55,493	53,917	51,044	49,545	48,830	49,258	47,669	44,308
世帯数（戸）	14,016	14,282	14,657	14,366	14,782	14,874	15,420	15,587	15,046

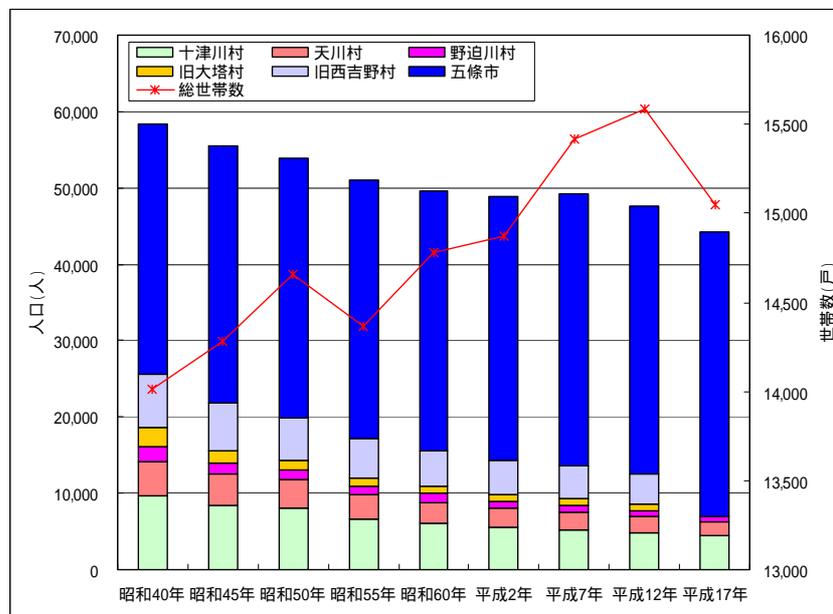


図 7.2 - 1 人口・世帯数の経年変化

出典：資料 7 - 2

(2) 産業別就業者人口

図 7.2 - 2 に事業所数の経年変化を、図 7.2 - 3 に就業者人口の経年変化を示す。また、図 7.2 - 4 に産業構造の経年変化を示す。事業所数は、ダム建設後の昭和 61 年までは増加し、その後減少に転じている。就業者人口は、平成 2 年に下げ止まり増加に転じたが、その後減少している。また、産業別就業者人口は、昭和 40 年に比べ第一次産業が約 15%と大幅に減少し、これに対し第三次産業は、約 60%と大幅に増加した。

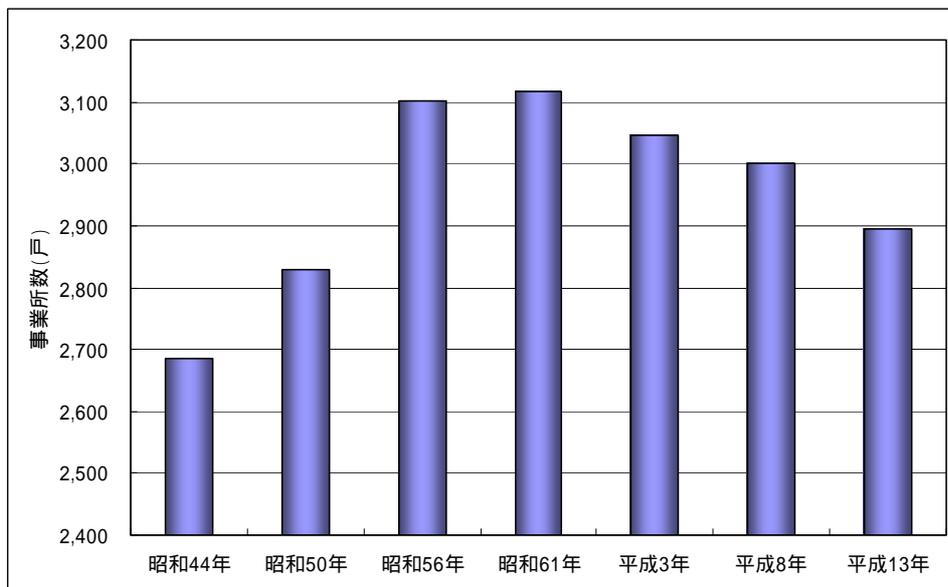


図 7.2 - 2 事業所数の経年変化

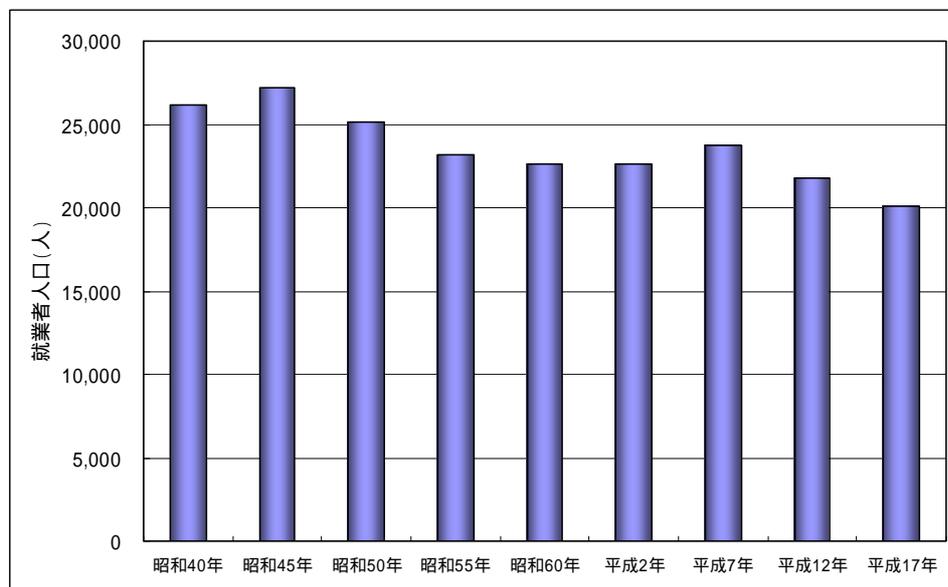


図 7.2 - 3 就業者人口の経年変化

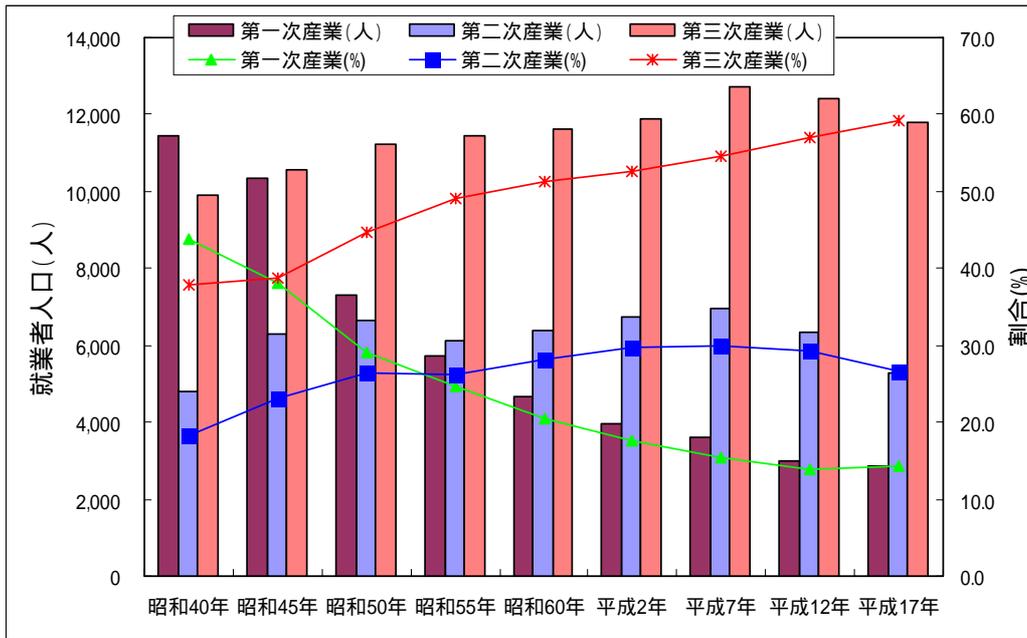


図 7.2 - 4 産業別就業者人口の推移

出典：資料 7 - 3

(3) 観光イベント等の開催

水源地域および下流市町村では、下記のような観光イベントが開催されている。

三市回遊スタンプラリー（主催：河内長野市・橋本市・五條市広域連携協議会）

三市回遊スタンプラリーは、五條市、橋本市、河内長野市、この三市にある観光ポイントを巡るスタンプラリーである。チラシに付いている応募はがきにスタンプを集めて送ると、抽選で三市自慢の特産品などが当たる。



出典：7 - 4

五條のやな漁（主催：吉野川やな漁保存会事務局）

五條のやな漁は、石や竹などでせき止めて、川の流れを集め、そこにアシや竹を荒く編んだ「すだれ」のようなものを置いて、アユを獲る伝統的漁法である。今では全国的にも珍しい「やな漁」を体験することができる。川原ではアユの塩焼きなども販売されている。



出典：7 - 5

吉野川祭り（主催：五條市商工観光課）

吉野川祭りは、2 日間にわたって行われる五條市の納涼花火大会である。1 日目は灯籠流しと打ち上げ花火が行われる。2 日目は、レーザー光線と音楽と花火の競演を楽しむことができ、それぞれ趣が違う。会場で花火を見ると、目の前で上がる花火を肌で感じることができる。



出典：7 - 5

吉野川フェスタ 2007 かわっ子まつり（主催：五條市商工会青年部）

吉野川フェスタは、「吉野川活性化プロジェクト」が主催して実施する事業の一つで、「みんなが川とふれあい遊び、吉野川にもっと関心を持ってほしい！そして、吉野川にきれいな清流を取り戻し、川を主役とした元気づくりを」という目的を掲げて平成 14 年に第 1 回目が開催されました。



出典：7 - 5

篠原踊（主催：五條市大塔町篠原区）

篠原地区は、豊富な自然林の中で育ったクリなどを材木として杓子や椀を作る「木地師」と呼ばれる人たちが住んでいた集落で、下流の惣谷、中井傍示、中峯では「舟ノ川郷」と呼ばれていた。他説ではこうした地域で自給の農耕を営む場合に問題となる農作物への獣害が、オオカミによって守られていたことに対する感謝の踊りではなかったかとも言われている。



出典：7 - 5

阪本踊り（主催：五條市大塔町阪本踊保存会）

阪本天神社の盆踊りは、特に山村らしい風情を残すことから「阪本踊り」と呼ばれ、奈良県の無形民俗文化財に指定されている。中でも「政吉踊り」は阪本の天神社の盆踊りで踊られるほか、政吉の命日にちなみに10月27日と4月27日に墓前で踊られていましたが、現在はふるさとへの帰省が多い4月29日に踊られている。



出典：7 - 5

平維盛歴史の里 - 春・秋の大祭（主催：平維盛歴史の里）

平維盛歴史の里で、年2回（五月と十月）開催される。平家の赤旗がはためく中、野迫川夜叉太鼓の勇壮な音が響きわたり、さまざまなアトラクションで賑わう。各種団体による模擬店、村の特産品販売、お楽しみ抽選会、餅つきなども人気を集め、村外からもたくさんの観光客が訪れる。



出典：7 - 6

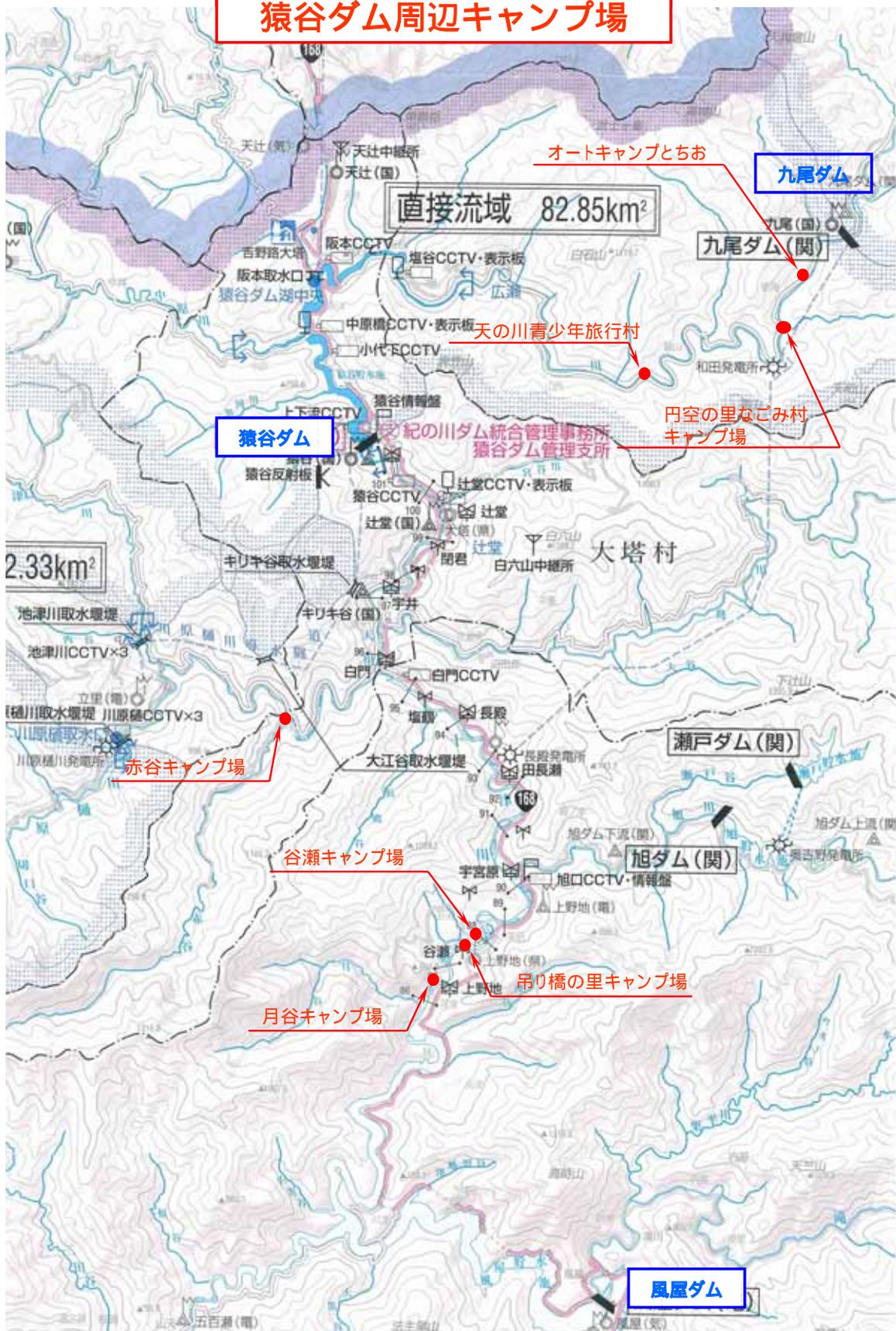
十津川の大踊り（主催：武蔵・小原・西川各踊保存会）
小原（8月13日）、武蔵（8月14日）、西川（8月15日）の村内3地区で行われる盆の大踊りは、「十津川の大踊り」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。それぞれに歌詞や振り付けが異なり、近世以前の古い踊りの姿を保存しており、その点が評価され3地区での指定となった。



出典：7 - 7

キャンプ場

猿谷ダム周辺キャンプ場



7.3 ダムと地域の関わりに関する評価

7.3.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

猿谷ダム周辺において、自然環境とも調和を図り、水と緑のオープンスペースを多くの人々に提供することを目指して環境整備事業が進められてきた。ダム湖周辺の整地、遊歩道・展望広場など観光資源としての活躍が期待されている。

猿谷ダムは、平成13年度に水源地域ビジョン策定対象ダムとして位置づけられ、猿谷ダム21世紀の水源地域ビジョン策定に向けて準備を進めている。

7.3.2 地域とダム管理者との関わり

猿谷ダムでは、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として、ダム管理者と地域との関わりの一環として、「サマーレイクフェスティバル」を開催している。平成18年度のサマーレイクフェスティバル2006では、以下を行った。

- ・ 環境月間絵画コンクール表彰式
- ・ ステージイベント
- ・ 関係団体ブース出展



サマーレイクフェスティバル2006の様子

7.4 ダム周辺の状況

7.4.1 ダム周辺環境整備事業の状況

猿谷ダムでは、ダム周辺を4つの地区に分けダム周辺環境整備事業を実施してきた。各地区の整備内容は以下の通りである。

表 7.4 - 1 猿谷ダム周辺環境整備事業の整備内容

A地区	<ul style="list-style-type: none">・展望広場（慰霊碑）・遊歩道
B地区	<ul style="list-style-type: none">・エントランス広場（記念碑・便所）・展望広場・桜並木・遊歩道
C、D地区	<ul style="list-style-type: none">・環境護岸

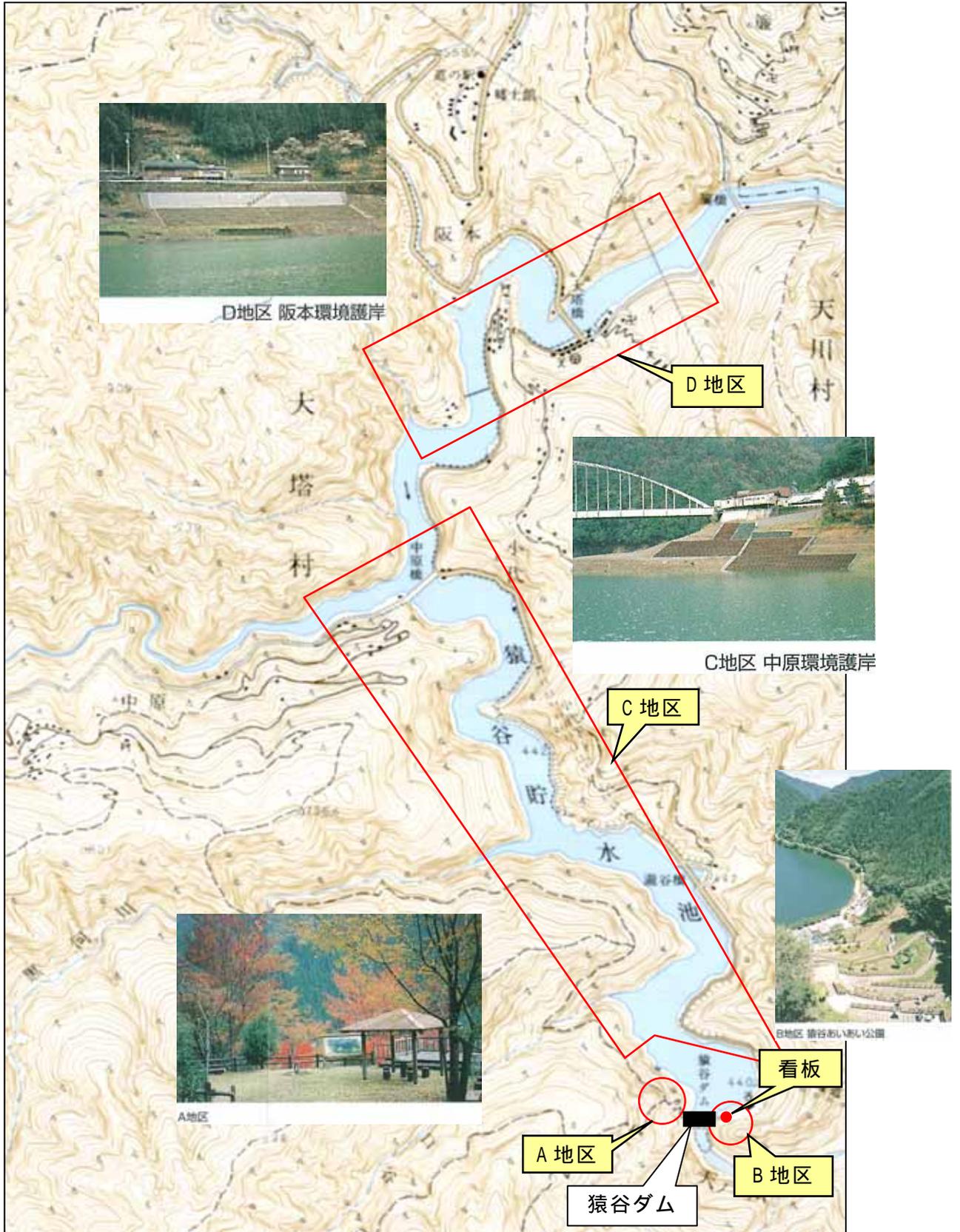


図 7.4 1 ダム周辺環境整備状況

7.5 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用者実態調査）結果

ダム湖利用者実態調査は、「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）（国土交通省河川局河川管理課）」により、平成3年度（1991）から3年ごとに実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査（利用者アンケート調査：直接ヒアリング、利用者カウント調査）を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

ダム湖利用実態調査のブロック区分施設位置図を図7.5-1に示す。猿谷ダムのダム湖利用実態では、以下の9つのブロックに区分して調査を実施している。

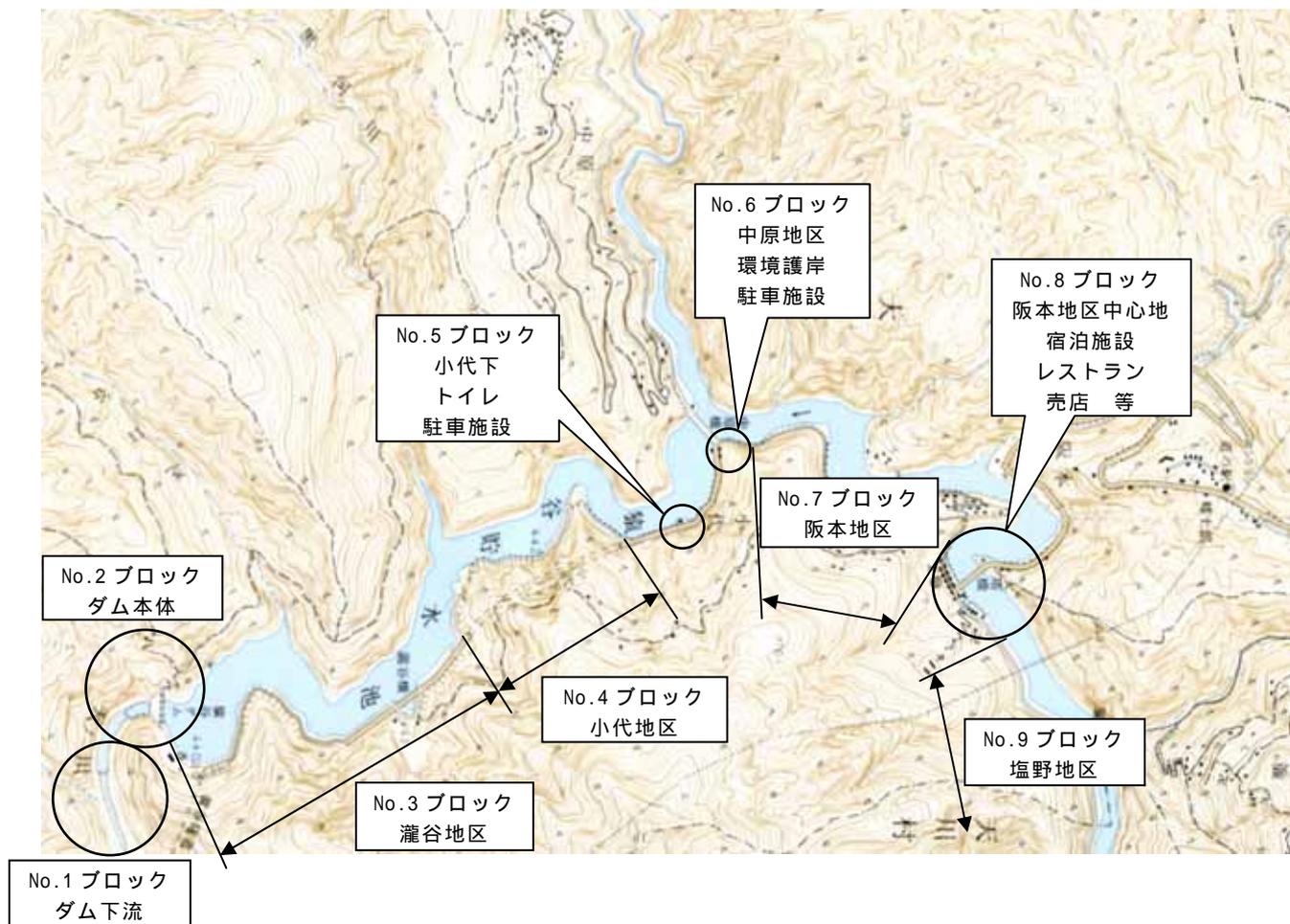


図 7.5 - 1 ブロック区分施設位置図

年間のダム湖利用者数の推計に当たっては、季節、休日と平日の違いを考慮し、各季節の休日、土曜日、平日の利用者数（実測値を基本とする）を原単位とし、それに各季節の休日・土曜日・平日の日数を乗じた推計値にイベント調査結果を加えることにより、年間利用者数の推計を行っている。利用形態別利用者数の集計に関わる考え方は、表 7.5 - 1、7.5 - 2 に示すとおりである。

表 7.5 - 1 利用形態別利用者数の集計に関わる考え方

本資料における 利用形態区分		第 1 回調査 (平成 3 年)	第 2 回 ~ 5 回 (平成 6, 9, 12, 15 年度)
	スポーツ	スポーツ	(陸上利用)陸上スポーツ (湖面利用)水上スポーツ
	釣り	釣り	(湖面利用)釣り:ボート利用 (湖面利用)釣り:湖岸
	ボート	ボート	(湖面利用)ボート等
	散策	散策等	(陸上利用)散策、休息、花見等
その他	野外活動	-	(陸上利用)その他:野外活動
	施設利用	-	(陸上利用)その他:各種施設利用
	その他	その他	(陸上利用)その他:その他 (湖面利用)その他

表 7.5 - 2 利用場所別利用者数の集計に関わる考え方

利用区分	利用場所	ブロック No
ダム本体ブロックを除く陸上利用	湖畔	1,3,4,5,6,7,8,9
ダム本体ブロックを除く湖面利用	湖面	1,3,4,5,6,7,8,9
ダム本体ブロックの利用	ダム	2

表 7.5 - 3 平成 15 年度年間利用者数の推計値

年間利用者数の推定方法											
季節	休日	調査日別 利用者数 (実測値)	原単位			日数			季節別 利用者数 (推計値)	イベント 参加人数 (実測値)	年間利用 者数 (推計値)
			休日	平日	土曜 (*1)	休日	平日	土曜			
春季	休日	365	573	86	212	16	65	11	17090	—	44804
	休日	781									
	平日	86									
夏季	休日	431	431	116	160	15	64	13	15969	—	44804
	平日	116									
秋季	休日	230	230	42	86	18	60	13	7778	—	44804
冬季	休日	120	120	22	45	17	61	13	3967	—	44804

* 1 : 休日 × 0.37

* 2 : 休日 × 0.18

* 3 : 春季休日 と 春季休日 の平均値

猿谷ダムの利用者は、主にダムまたはその湖畔への散策に訪れていることが、図 7.5 - 2 よりわかる。

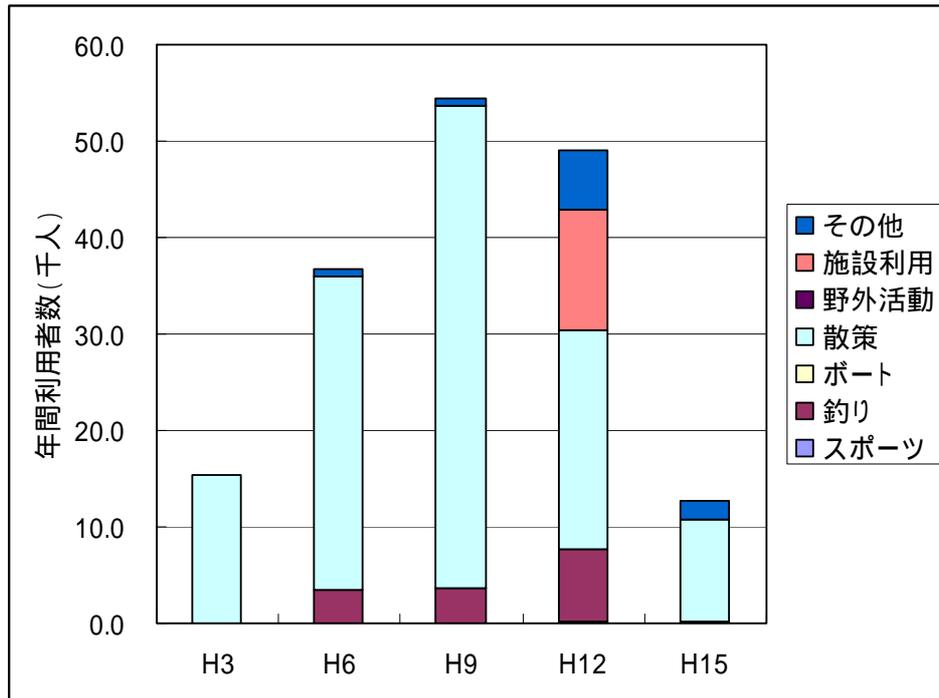


図 7.5 - 2 ダム湖および周辺の利用状況

(単位：千人)

		平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度
場所別	湖面	0.0 (0.0%)	3.6 (9.7%)	4.3(7.9%)	8.7 (17.7%)	<0.1(0.5%)
	湖畔	14.0(91.8%)	2.1(5.7%)	25.1(46.0%)	19.8 (40.2%)	12.4(99.5%)
	ダム	1.3 (8.2%)	31.1 (84.5%)	25.2 (46.1%)	20.7 (42.1%)	0.0 (0.0%)
合計		15.3	36.8	54.6	49.2	12.5

出典：資料 7-10

(参考資料)

河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)によるダム湖および周辺の利用状況では、春季、夏季、秋季、冬季に調査を実施することになっていたが、平成15年度は秋季休日および冬季休日の2日間しか調査を実施しておらず、そのため過去に比べて利用者が極端に少なかった。そこで、実測値のある秋季、冬季データおよび過去の春季、夏季データを利用して平成15年度のダム湖利用者数の推計を行った。推計方法は、以下の通りである。

各季節の期間、休日・平日の日数は以下のとおりの区分とした。

春季：3/1～5/31(休日16日、土曜日11日、平日65日)

夏季：6/1～8/31(休日15日、土曜日13日、平日64日)

秋季：9/1～11/30(休日18日、土曜日13日、平日61日)

冬季：12/1～2/29(休日17日、土曜日13日、平日61日)

各季節の土曜日および秋季・冬期の平日については実測値がないため、平成4年度に行った補足調査結果より得られた全国平均の比率を乗じる(土曜日=0.37×休日、平日=0.18×休日)ことにより、原単位を求めた。

なお、平成15年度の年間利用者数(推計値)は、過去の利用者数に比べて、少なくなっている。これは、平成15年度の調査が、秋季休日、冬季休日の2日間しか調査を行わず、推計したためである。

そこで、平成15年度の年間利用者数を以下のとおり推計を行った結果、44,804人となった。

平成15年度の実測値のある秋季および冬季の合計人数は、350人である。

平成15年以外の年(平成3,6,9,12年)の、秋季および冬季の合計人数を平均すると299.3人となる。

平成15年と平成15年以外の平均値の秋季および冬季の合計人数の比率は、1.17となる。

平成15年の春季および夏季も同じ比率で利用者数が来場すると仮定すると、平成15年の春季および夏季利用者数は、33,059人と推測できる。

春季および夏季は推定値33,059人に秋季および冬季は実測値を加えると、年間利用者数は、44,804人と推定できる。

7.6 まとめ

ダムを活用した水源地域の自立的、持続的な活性化を図るため、平成 13 年度より猿谷ダム 21 世紀水源地域ビジョンの作成に取り組んでいる。

ダム湖周辺のイベントとして「森と湖に親しむ旬間」、「サマーレイクフェスティバル 2006」などの催しを実施しており、受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティの向上に努めている。

< 今後の方針 >

水源地域の活性化が図れるよう、猿谷ダム 21 世紀水源地域ビジョンの策定を行う。

また、今後もイベントを通じて受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティの向上に努めていく。

7.7 文献リスト

表 7.7 - 1 使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7 - 1	五條市ホームページ	五條市役所		ダムの立地条件
7 - 2	国勢調査（人口・世帯）	（財）統計情報研究会 開発センター	昭和 40 年～ 平成 12 年	人口・世帯
7 - 3	国勢調査（就業者人口）	総務庁統計局	昭和 40 年～ 平成 12 年	就業者人口
7 - 4	河内長野市ホームページ	河内長野市		
7 - 5	五條市ホームページ	五條市役所		
7 - 6	野迫川村ホームページ	野迫川村		
7 - 7	全国盆踊り 十津川盆踊り	全国盆踊り		
7 - 8	ダム周辺施設観光入込客数	五條市		ダム周辺施設の 利用状況
7 - 9	ダム周辺施設観光入込客数	十津川村		ダム周辺施設の 利用状況
7 - 10	河川水辺の国勢調査	国土交通省河川局河 川環境課	平成 3～平成 15 年	ダム周辺施設の 利用状況